



## 田村 豊さん

Tamura Yutaka

医療法人社団めぐみ会理事長、多摩市医師会会长

1956年静岡県生まれ。京大法学部卒業後、一般企業を経て岐阜大学医学部入学、89年卒業。徳洲会病院、三井記念病院等での勤務を経て94年、東京・多摩市に田村クリニックを開業。2012年より多摩市医師会会长。



### 「ライフワークは地域医療の先駆的モデルの確立」

高校時代から「医師になりたい」という漠然とした思いはあった。いったんは法学部に進学し、一般企業に就職したものの、法務部門で社員たちの法律相談にのるうち、その思いは一層強くなり、2年で会社員生活に別れを告げ、医学の道に進んだ。

「法律相談のように人の世話を焼く仕事がとても楽しかったんです。それでそれを生業にする仕事はなんだろうと考え、町医者になる決意をしました」

医師としては遅いスタート。その遅れを取り戻すため、40歳で開業医としての基盤を確立する目標を立て、卒業後は基幹病院などで臨床医としての腕をみがくことに専念した。37歳で東京・多摩市に「田村クリニック」を開業。約20年で、都内に9拠点を展開する医療法人に育て上げた。



東日本大震災の際には、約30人のスタッフとともに宮城・石巻で医療支援にあたった

大病院への外来集中は医療界における長年の懸案事項だが、診療所が患者の専門医志向を満たす外来診療を提供することが打開策になる、と田村さんは考える。とはいえ、1人の医師があらゆる分野に精通することには限界がある。そこで出した答えが、複数の専門医によるチーム医療。

糖尿病、消化器、循環器、呼吸器など、各領域の専門医約100名が所属する「医療法人社団めぐみ会」は、入院を必要とする手術や検査以外、すべて自院で完結できる体制を整えている。

複数診療体制の導入で、年中無休診療、往診時間の確保も可能になった。約250人の在宅患者の往診を、外来診療の合間をぬって専門医が交代で担う。東日本大震災の際も、日常診療に支障を来すことなく、被災地の医療支援のために30人ほどのスタッフを速やかに現地に派遣することができた。

自身のライフワークは、めぐみ会の取り組みを通じて地域医療の新たなスタイルを確立すること、と語る田村さん。

「大病院と比べて遜色ない専門医療、年中無休診療、在宅医療など、個人診療では対応が難しいこともチームで担うことで可能になり、個々の医師の負担も軽くなる。その先駆的モデルを示すことができればいいですね」